

平成22年度 自己評価書・学校関係者評価書

【別紙 1-2】

鈴鹿市立箕田小学校						
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
学 力 保 障	授業研究	全員が年間1回は研究授業を行う。	13回の研究授業を実施した	全担任が研究授業を行い、3学級は外部公開をした。教材研究が深まり、指導力の向上につなげることができた。	○全国学力学習状況調査やCRT調査の分析結果は、どのように生かされているのか。	○学校ボランティアの拡大を図るために、地域にも呼びかけ募集を募っていきたい。
	授業改善	学力調査等を実施・分析し、学期毎に重点教材を決めて学年で指導について話し合う。	4月に6年生が全国学力学習状況調査を行い、その時期にあわせて2年～5年でCRT調査を実施した。	学力調査等を行うことで、日々の授業の中で児童につけたい力が明確になった。教材研究が深まり授業に生かすことができた。互いの授業を見合う時間確保が課題である。	○学習ボランティアの募集を今後どのように考えているのか。地域の方や年齢層を広げていただければと思う。	○読み聞かせについてもボランティアの拡大を図り、PTA研修部と連携し、高学年でも実施できるように計画する。
	学習規律	児童が話をしっかり聞くようあらゆる機会です指導する。	アンケートより、児童は「先生の話は目を見て熱心に聞いている」の肯定的回答87.9% 保護「話している人の方を見て聞く」の肯定的回答88.3%	児童へのアンケートでは、3.1ポイント低下したが、保護者へのアンケートでは、3.6ポイント向上している。集会や一斉下校などあらゆる機会をとらえて繰り返し声をかけている。	○読み聞かせを高学年でも実施してあげたらと思う。 ○6年生が、総合学習の取り組みとして、戦争体験の話を聞かせてほしいと自宅へやってきました。きちんとした態度で取り組み、礼を言って帰った。	○今年度、地域の方々との交流学习の中で、施設やお店、自宅に訪問し調べ学習を行ったり、学校に地域の方を招いて楽しんでもらった。しかし、訪問先では子どものコミュニケーションに課題もあり低学年から地域の方々との触れ合いが大切であることを指摘された。教育活動の中に、地域の方と触れ合う活動をさらに取り入れるとともに、地域の行事やイベントにも進んで参加させたい。
	基礎学力の徹底	漢字や計算などの基礎的技能と文を読みとる力を高める。	達成率（全校平均） 漢字等 92.6% 計算等 91.3%	昨年度と比較すると、漢字は1.5P上回り、計算は3.4P下回る結果。繰り返しの練習や朝の学習、家庭学習、補充学習の成果である。	○子どもは小学生のうちから、地域の大人と触れ合えることをしないと、中学生からでは遅い。低学年から地域で触れ合える機会を学校でも考えてほしい。	○読書活動においては、今年度1月末までの本校図書館貸し出しは10,213冊、公立図書館からの貸し出しは、606冊であった。昨年度と比べると少し減少しており、読書活動推進に向けた取り組みがさらに必要である。
	少人数指導	・少人数非常勤、担任外教員によるTTや少人数指導を行う。 ・各クラス2時間は確保する。	全体で33時間の少人数授業を実施し、全クラス2時間以上の少人数授業が確保された。	教室の都合でTTが多かったが、子どもの状態に応じて個別の指導も行い、ていねいに指導ができ児童が落ち着いた。	○特別支援教育について、指導計画や個別の教育支援計画は作成されているか。 ○不登校児童はどれくらい在籍しているか。	
	学習ボランティア活用	・学習ボランティア（国、算）による指導の充実 ・週12時間（各クラス1時間）は確保する。	学習ボランティア15名（国・算）配置し、各クラス週1時間確保することができた。	時間割に位置づけて○付け、漢字指導等継続的な支援を受けることができた。子どもの様子を理解していただき、スムーズな支援につながった。		
	読書指導	・朝読書の確保と読み聞かせの推進 ・読書好きな子を増やす。	毎週火・金は朝の読書を実施し低学年を中心に、読み聞かせを行った。児童アンケートより、「本を読むのは好き」77.5%	読書好きな子が前年度より2.6ポイント向上した。朝読書週2日の確保、ボランティアや教師による読み聞かせ、また、巡回指導員等による環境整備とブックトーク実施などが成果として表れている。		
	特別支援教育	普通学級に在籍する特別支援を必要とする児童への支援（個別指導など）を充実する。	児童アンケートより、 「学校は楽しい」95.5% 「勉強はわかる」91.6%	個別指導ができるように時間割を工夫したりして、児童理解が深まった。個別指導の時間と場所の確保が課題である。		

人権教育	異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動を学期2回以上実施する。 集団登校や遊びを通してつながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動4回(12月末) 児童アンケートより、「年下の子のことを考えて行動している」 91.88% 	アンケートでは、前年度より0.4ポイント向上した。休み時間に異学年で遊ぶ姿がよく見られる。集団登校では、高学年が下級生の面倒をしっかり見ているとの報告もいただく反面、課題もあり粘り強い指導が必要である。	○6年生が、登下校(通 学団)で下級生に並び方の指導をしている。	○今後も、高学年が良い姿を示せるよう粘り強く指導し、通学団による登下校を充実させる。
	人権授業研究	<ul style="list-style-type: none"> 人権をテーマにした研究授業を実施し、大木中学校区の学校に公開する。 人権集会を実施し、人権感覚を高める。 	大木中学校区の学校を対象に全クラスで公開授業を実施。	人権集会は、児童会が中心となり全校で人権について考える良い取り組みとなった。保護者や地域に参観を呼びかけたが、少なかった。		
	児童理解	朝の会、帰りの会、休み時間、掃除の時間などきめ細かな観察を行い、児童理解に役立つ。	児童「学校は楽しい」95.5% 保「元気に学校へ行く」99.7%	保護者アンケートで、ほぼ全員が「元気に学校へ行く」と回答。		
生活指導	児童の情報共有	朝の打ち合わせや職員会議で気になる児童の指導について情報交換する。	職員会議や朝の打ち合わせなど、教職員全員でタイムリーに情報を共有することができた。	職員会議で子どもの情報交換を毎月行ってきたので、登校しぶりや特別支援教育対象児童への対応方針について共通理解することができた。	○子どもの問題や課題を職員みんなで共有することは先生を孤立させないためにも大切なこと。	○今後も職員の共通理解を図り、情報を共有しながら、課題については全職員で取り組む体制を構築する。
	あいさつ	児童が進んであいさつできるように、教師や大人が積極的に働きかける。	アンケートより、「進んであいさつする」 児童 93.0% 保護者 89.8%	児童、保護者とも、前年度より少し下回った。日頃の声かけだけではなく、児童会の取り組みとして「あいさつ運動」を実施している。	○朝の挨拶ができない親も少ない。親を指導する必要がある。 ○知らない子どもから道であいさつをもらった。よく指導してもらっていると思う。	○毎日のあいさつや児童会のあいさつ運動を今後も継続して行うとともに、自ら進んであいさつのできる児童に育てたい。
	掃除指導	毎日、教師が児童と一緒に掃除をする。	児童アンケートより、「そうじを熱心にする」90.7%	前年度より0.9ポイント向上した。教師の率先垂範が徹底されており、熱心に掃除に取り組む児童が増えてきている。	○携帯電話の学校での取り扱い。(学校へは禁止)	
	ホイッスル携行 ヘルメット着用	<ul style="list-style-type: none"> 毎日ホイッスル(ブザー)を携行させる。(95%以上) 自転車に乗る時は、ヘルメットを着用させる。(90%以上) 	ホイッスル携行率93.6% ヘルメット着用率91.3%	ホイッスルの携行については、目標値を1.4ポイント下回った。朝の登校や一斉下校での指導、各クラスでの取り組みを粘り強く進めていく。ヘルメットの着用については、目標値を達成している。引き続き保護者や地域と連携して声かけや指導を続けたい。		